―― 東邦ガス株式会社 ――

2024年3月期
第2四半期
連結決算説明資料

2023年10月31日

目　　次

1.	2024年3月期　第2四半期連結決算の概要	…	3
2.	2024年3月期　連結決算の通期見通し	…	8
3.	PBRの向上に向けた検討について	…	14
＜参考1＞	中期経営計画2022-2025の概要	…	18
＜参考2＞	株主還元の実施状況	…	21

本資料における業績予想及び将来の予測に関する記述は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、潜在的なリスクや不確実性が含まれております。従いまして、実際の業績は、さまざまな要因により、これらの業績予想とは異なる場合がありますことをご承知おき下さい。

1．2024年3月期　第2四半期連結決算の概要
（1）お客さま数・販売量

エネルギー お客さま数

	2024.3期 2Q	2023.3期 2Q	増減	増減率	摘要
お客さま数（千件）	2,963	2,896	67	2.3%	
都市ガス	1,751	1,743	8	0.4%	
LPG※	612	605	7	1.1%	
電気	600	548	53	9.6%	新規開発

※ 配送受託件数を含む

＜参考＞都市ガス 取付メーター数（千件）	2,589	2,564	25	1.0%	新規開発

エネルギー 販売量

	2024.3期 2Q	2023.3期 2Q	増減	増減率	摘要
都市ガス（百万m³）	1,603	1,663	△60	△3.6%	
家庭用	203	218	△15	△6.8%	気温影響△6 など
業務用等	1,400	1,446	△45	△3.1%	気温影響＋9、生産増減△22、その他個別要因△44 など
LPG（千トン）	206	214	△8	△3.7%	気温影響など
電気（百万kWh）	1,244	1,112	132	11.9%	お客さま数の増など
＜参考＞平均気温（℃）	24.3	23.8	0.5	–	

1．2024年3月期　第2四半期連結決算の概要
（2）収支状況

（単位：億円）

	2024.3期 2Q	2023.3期 2Q	増減	増減率
売上高	**3,009**	3,028	△19	△0.6%
売上原価	**2,109**	2,328	△219	△9.4%
供給販売費及び一般管理費	**611**	615	△3	△0.6%
営業利益	**288**	84	203	242.3%
経常利益	**319**	98	221	225.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益	**245**	68	177	257.0%

	2024.3期　2Q	2023.3期　2Q	対前年同期
原油価格（全日本CIF）	83.5　ドル/バレル	111.9　ドル/バレル	28.4　ドル安
為替レート（TTM）	141.1　円/ドル	134.0　円/ドル	7.1　円安

1．2024年3月期　第2四半期連結決算の概要
（3）セグメント別 売上高・営業利益

（単位：億円）

売上高

	2024.3期 2Q	2023.3期 2Q	増減	増減率
ガス	**1,999**	1,901	97	5.1%
LPG・その他エネルギー	**444**	507	△62	△12.3%
電気	**435**	509	△74	△14.5%
その他	**255**	228	26	11.8%
調整額	**△126**	△119	△7	—
連結売上高	**3,009**	3,028	△19	△0.6%

営業利益

	2024.3期 2Q	2023.3期 2Q	増減	増減率
ガス	**261**	132	128	96.6%
LPG・その他エネルギー	**5**	△11	16	—
電気	**△12**	△64	51	—
その他	**25**	19	6	30.5%
調整額	**8**	7	1	—
連結営業利益	**288**	84	203	242.3%

1．2024年3月期　第2四半期連結決算の概要
（4）経常利益　増減要因（対前年同期）

経常利益
＋221億円
（98⇒319）

営業利益
＋204億円
（84⇒288）

ガス事業
＋130億円
（132⇒261）

■ガス販売量の影響	**△15億円**
■スライドタイムラグ等の影響	**＋385億円**
【主な内訳】	
・スライドタイムラグの影響	＋590億円 （△375⇒215）
・原材料在庫の受払差影響	△185億円 （135⇒△50）
■その他	**△240億円**

ガス事業以外
＋74億円
（△48⇒27）

営業外収支
＋17億円
（13⇒30）

(注) 括弧内の数値…左側：2023.3期2Q利益の絶対値
右側：2024.3期2Q利益の絶対値

1．2024年3月期　第2四半期連結決算の概要
（5）財政状況等

（単位：億円）

	2024.3期 2Q末	2023.3期 期末	増減
総資産	**7,110**	6,935	175
純資産	**4,421**	4,025	396
有利子負債	**1,372**	1,466	△94
自己資本比率	**62.2%**	58.0%	4.2 ポイント
D/Eレシオ (倍)	**0.31**	0.36	△0.05

	2024.3期 2Q	2023.3期 2Q	増減
営業ＣＦ	**391**	49	341
投資ＣＦ	**△145**	△238	92
（ＦＣＦ）	**(245)**	(△188)	433
財務ＣＦ	**△134**	288	△422
現預金の増減額	**118**	105	13
期末現預金残高	**457**	426	30
投融資	**212**	265	△52
減価償却費	**180**	177	3

2. 2024年3月期 連結決算の通期見通し
（1）お客さま数・販売量（対前年度実績）

エネルギー お客さま数

	2024.3期 見通し	2023.3期 実績	増減	増減率	摘要
お客さま数（千件）	2,975	2,921	54	1.8%	
都市ガス	1,752	1,741	12	0.7%	
LPG※	619	604	15	2.4%	
電気	604	576	28	4.8%	新規開発

※ 配送受託件数を含む

＜参考＞都市ガス 取付メーター数（千件）	2,599	2,579	19	0.7%	新規開発

エネルギー 販売量

	2024.3期 見通し	2023.3期 実績	増減	増減率	摘要
都市ガス（百万m³）	3,454	3,454	＋0	0.0%	
家庭用	591	583	8	1.4%	気温影響＋14 など
業務用等	2,863	2,871	△8	△0.3%	気温影響＋14、生産増減△50、その他個別要因＋8 など
LPG（千トン）	475	475	△0	△0.0%	
電気（百万kWh）	2,492	2,369	123	5.2%	お客さま数の増など
＜参考＞平均気温（℃）	17.1	17.3	△0.2	－	

2. 2024年3月期 連結決算の通期見通し
（2）お客さま数・販売量（対前回見通し）

エネルギー お客さま数

	2024.3期 見通し	2024.3期 前回見通し	増減	増減率	摘要
お客さま数（千件）	2,975	2,975	–	–	変更なし
都市ガス	1,752	1,752	–	–	〃
LPG※	619	619	–	–	〃
電気	604	604	–	–	〃

※ 配送受託件数を含む

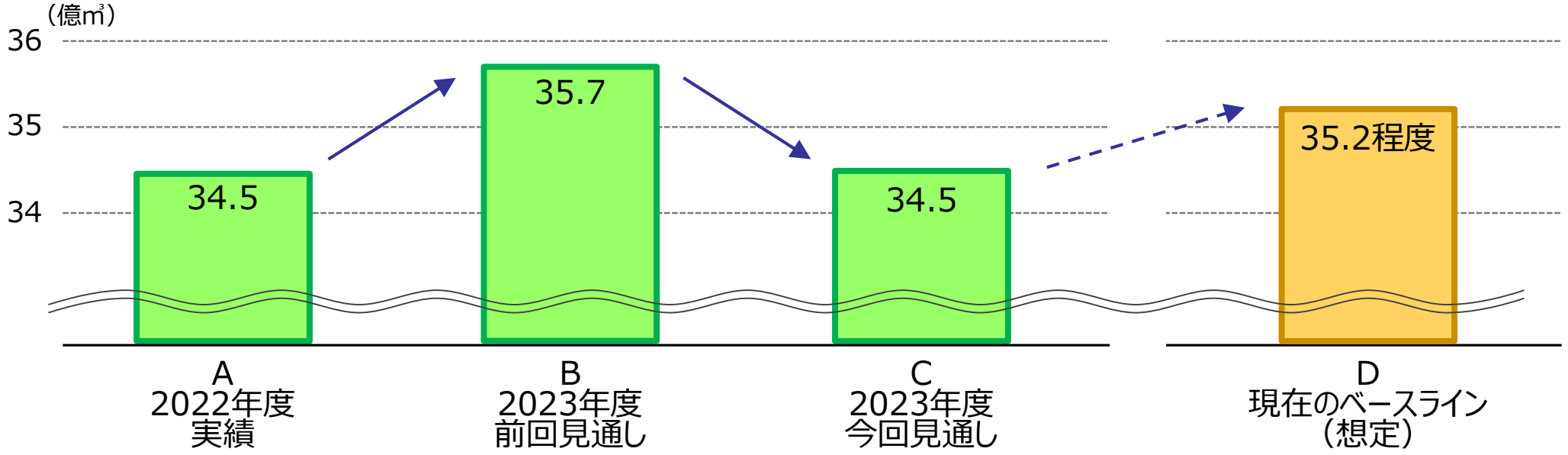
＜参考＞都市ガス 取付メーター数（千件）	2,599	2,599	–	–	変更なし

エネルギー 販売量

	2024.3期 見通し	2024.3期 前回見通し	増減	増減率	摘要
都市ガス（百万m³）	3,454	3,572	△118	△3.3%	
家庭用	591	607	△16	△2.6%	気温影響△16 など
業務用等	2,863	2,965	△102	△3.4%	生産増減△50、 その他個別要因△52 など
LPG（千トン）	475	480	△5	△1.0%	
電気（百万kWh）	2,492	2,539	△47	△1.9%	
＜参考＞平均気温（℃）	17.1	16.5	0.6	–	

【補足】都市ガス販売量について

都市ガス販売量の実績/見通し



	B－A：＋1.2億㎥	C－B：△1.2億㎥	D－C：＋0.7億㎥程度
用途別の内訳	家庭用　＋0.2億㎥ 業務用等　＋1.0億㎥	家庭用　△0.2億㎥ 業務用等　△1.0億㎥	家庭用　＋0.2億㎥ 業務用等　＋0.5億㎥
増減要因	前年度冬期の高気温による需要減の反動に加え、工場等の生産稼働が一定程度回復する想定で、プラスを見込んでいたもの。	上期に顕在化した高気温による需要減に加え、コロナからの回復遅れなどによる工場等の生産稼働の一時的な需要減と、省エネ等の個別要因による需要減を反映し、下方修正。	平年並みの気温を前提とした需要の戻りに加え、工場等の生産稼働における一時的な需要減の戻りを反映。(省エネ等の個別要因による需要減はベースラインに含まない)

2. 2024年3月期 連結決算の通期見通し
（3）収支状況等

（単位：億円）

	2024.3期 見通し	2023.3期 実績	増減	増減率	摘要
売上高	**6,600**	7,060	△460	△6.5%	前回見通し：6,700億円
営業利益	**250**	437	△187	△42.8%	前回見通し：220億円
経常利益	**290**	481	△191	△39.8%	前回見通し：260億円
親会社株主に帰属する当期純利益	**220**	337	△117	△34.8%	前回見通し：180億円
投融資	**704**	601	102	17.0%	変更なし
減価償却費	**382**	362	20	5.6%	〃

【前提】

（単位：ドル/バレル、円/ドル）

	2024.3期	2023.3期	対前期比較	備考
原油価格	86.8	102.7	15.9ドル安	10月以降 90ドル/バレル
為替レート	145.5	135.5	10.0円安	10月以降 150円/ドル

【感応度(年間)】

	ガス粗利
原油価格　＋1ドル/バレル	△3.5億円
為替レート ＋1円/ドル	△2億円

2. 2024年3月期 連結決算の通期見通し
（4）経常利益 増減要因（対前年）

経常利益
△191億円
（481⇒290）

営業利益
△187億円
（437⇒250）

営業外収支
△4億円
（44⇒40）

ガス事業
△255億円
（461⇒205）

ガス事業以外
＋68億円
（△23⇒45）

■ガス販売量の影響	**＋15億円**
■スライドタイムラグ等の影響	**＋190億円**
【主な内訳】	
・スライドタイムラグの影響	＋300億円 （△180⇒120）
・原材料在庫の受払差影響	△65億円 （45⇒△20）
■その他	**△460億円**

(注) 括弧内の数値…左側：2023.3期利益の絶対値
右側：2024.3期利益の絶対値

2. 2024年3月期 連結決算の通期見通し
（5）経常利益 増減要因（対前回計画）

経常利益
＋30億円
（260⇒290）

営業利益
＋30億円
（220⇒250）

ガス事業
＋25億円
（180⇒205）

■ガス販売量の影響	△25億円
■スライドタイムラグ等の影響	＋85億円
【主な内訳】	
・スライドタイムラグの影響	＋50億円 （70⇒120）
・原材料在庫の受払差影響	△5億円 （△15⇒△20）
■その他	△35億円

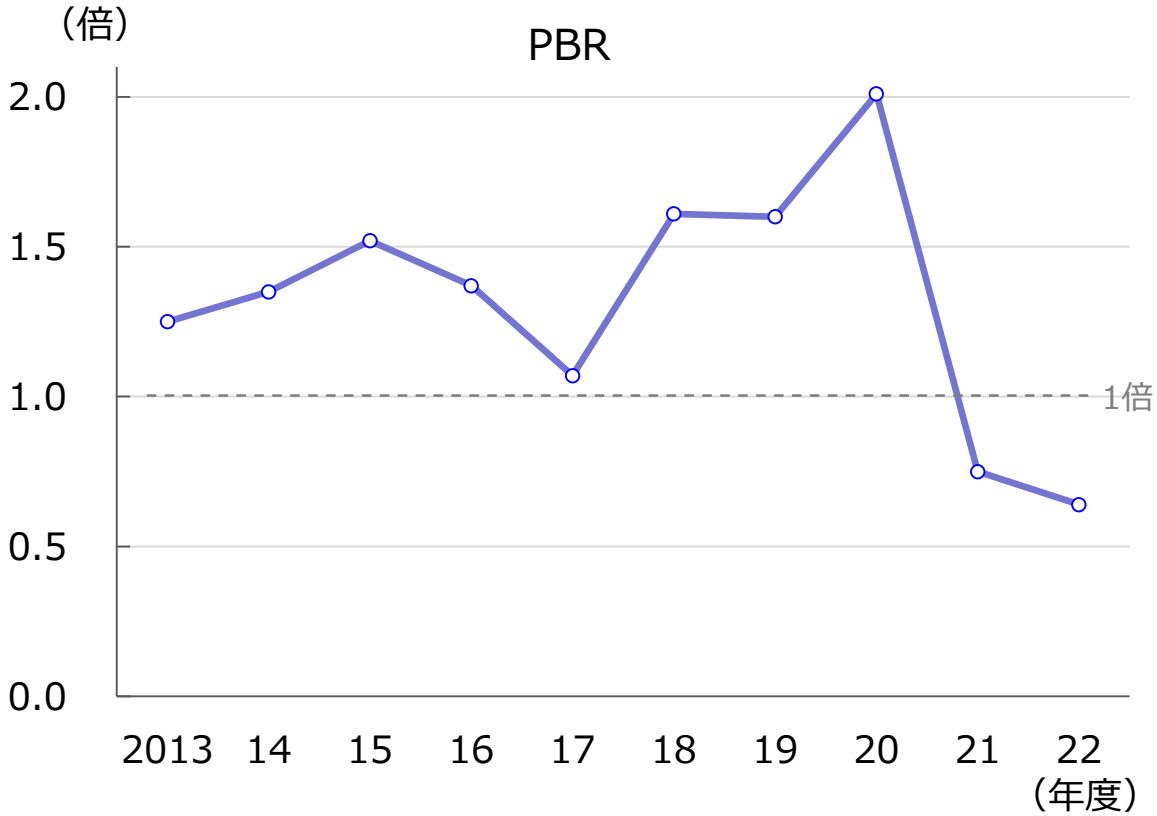
ガス事業以外
＋5億円
（40⇒45）

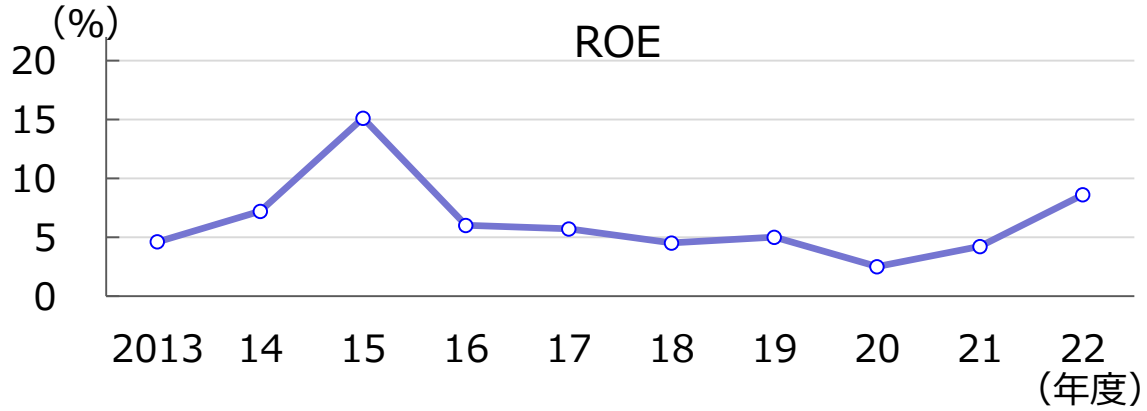
営業外収支
±0億円
（40⇒40）

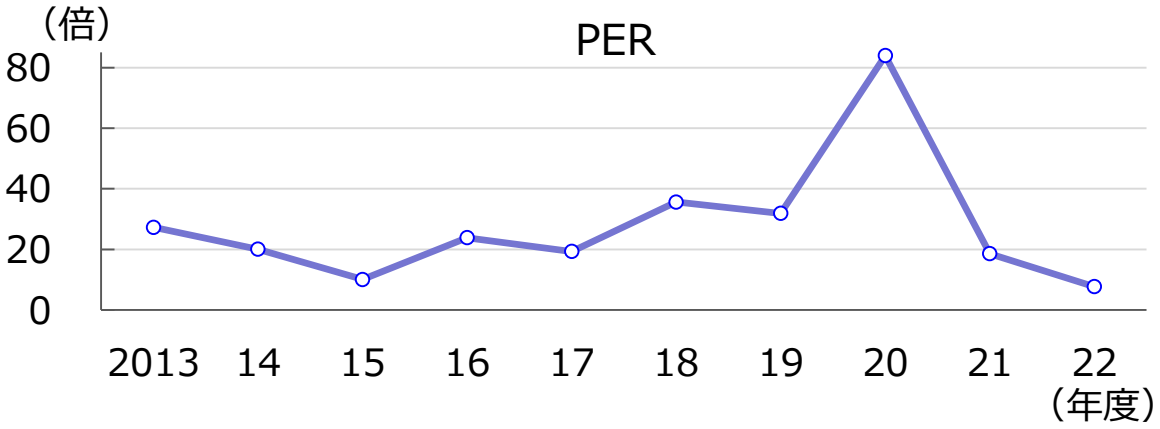
(注) 括弧内の数値…左側：2024.3期/前回計画利益の絶対値
右側：2024.3期/今回計画利益の絶対値

3．PBRの向上に向けた検討について
（1）株式市場からの評価とROEの水準

- 当社のPBR（株価純資産倍率）は、以前は1倍を超えて推移していたものの、2021年度からは1倍を下回っている状況。



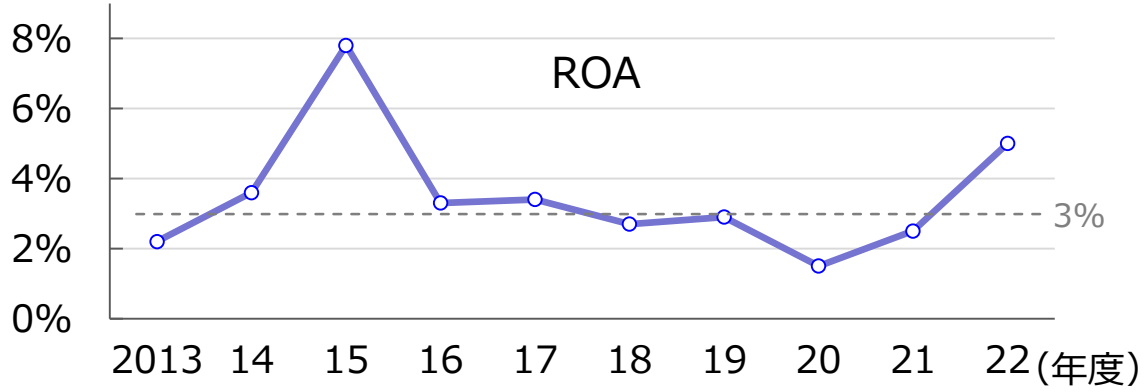


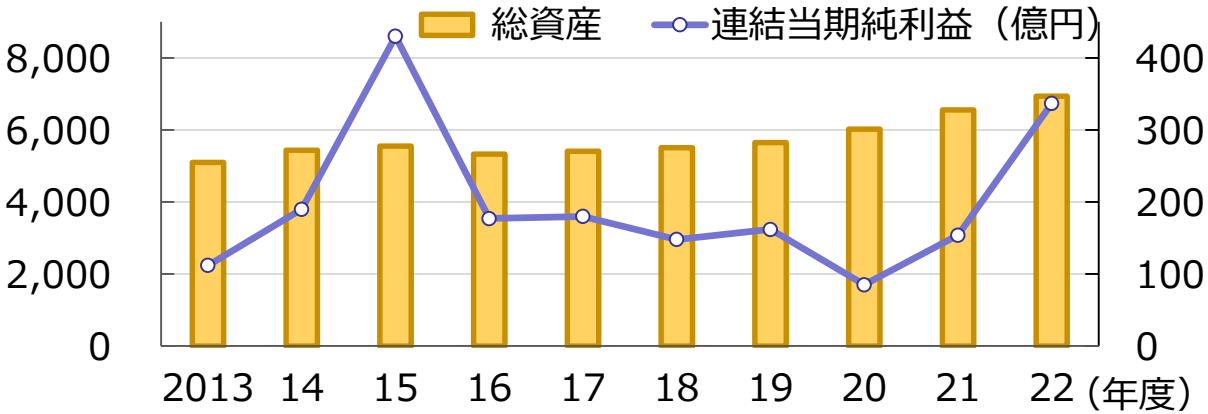


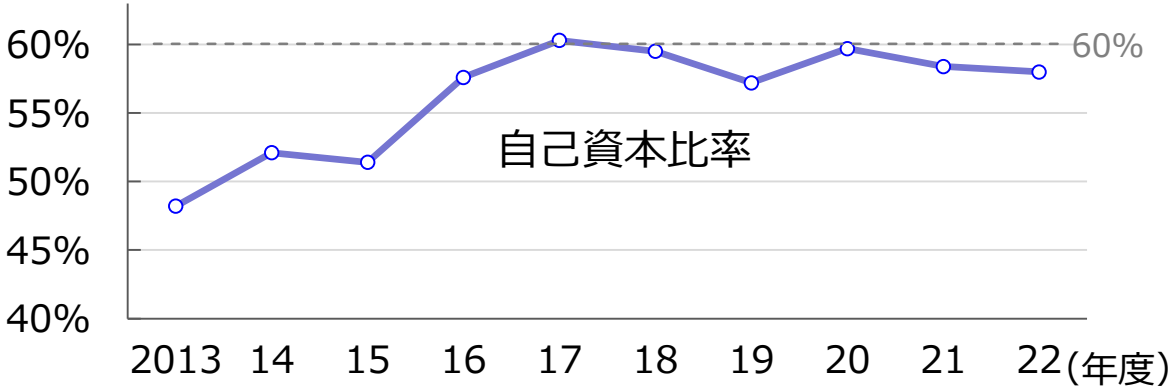
＊PBR ＝ 期末株価／ 1株あたり純資産額（普通株式に係る期末純資産の額合計／期末の普通株式の発行済株式数）
＊PER ＝ 期末株価／ 1株あたり当期純利益（普通株式に係る親会社株主に帰属する当期純利益／ 普通株式の期中平均株式数）
＊ROE ＝ 親会社株主に帰属する当期純利益／自己資本（期中平均）×100

3．PBRの向上に向けた検討について
（2）ROEの分析（ROA･自己資本比率）

- 当社のROA（総資産利益率）は、直近実績を除いて3%程度で推移。戦略事業への投資の拡大や、原油高･円安の進行に伴う運転資本の増加により、総資産の規模は増加している。
- 自己資本比率は2016年度以降、60%に近い水準で推移。直近10か年の合計では営業キャッシュフローの範囲内で投資を行うとともに、株主還元･負債の返済を実施。





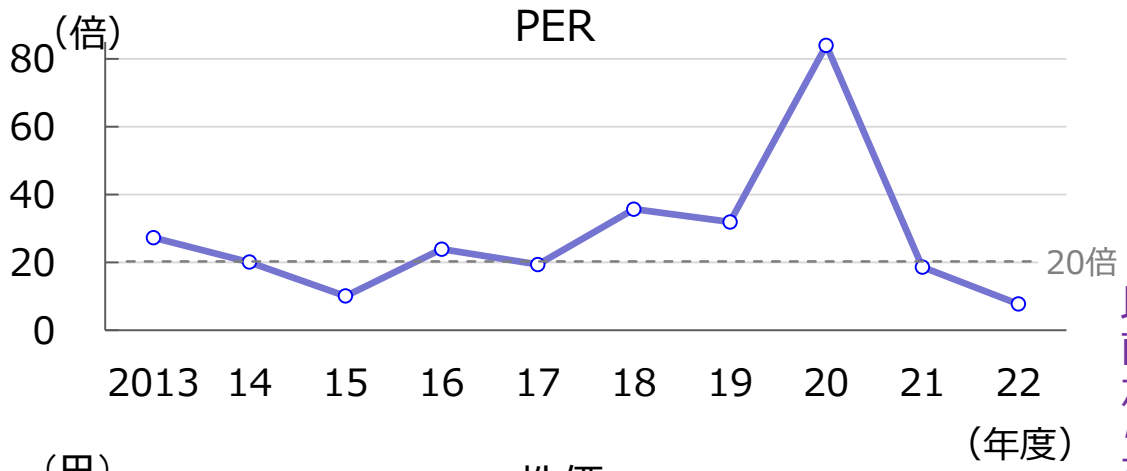


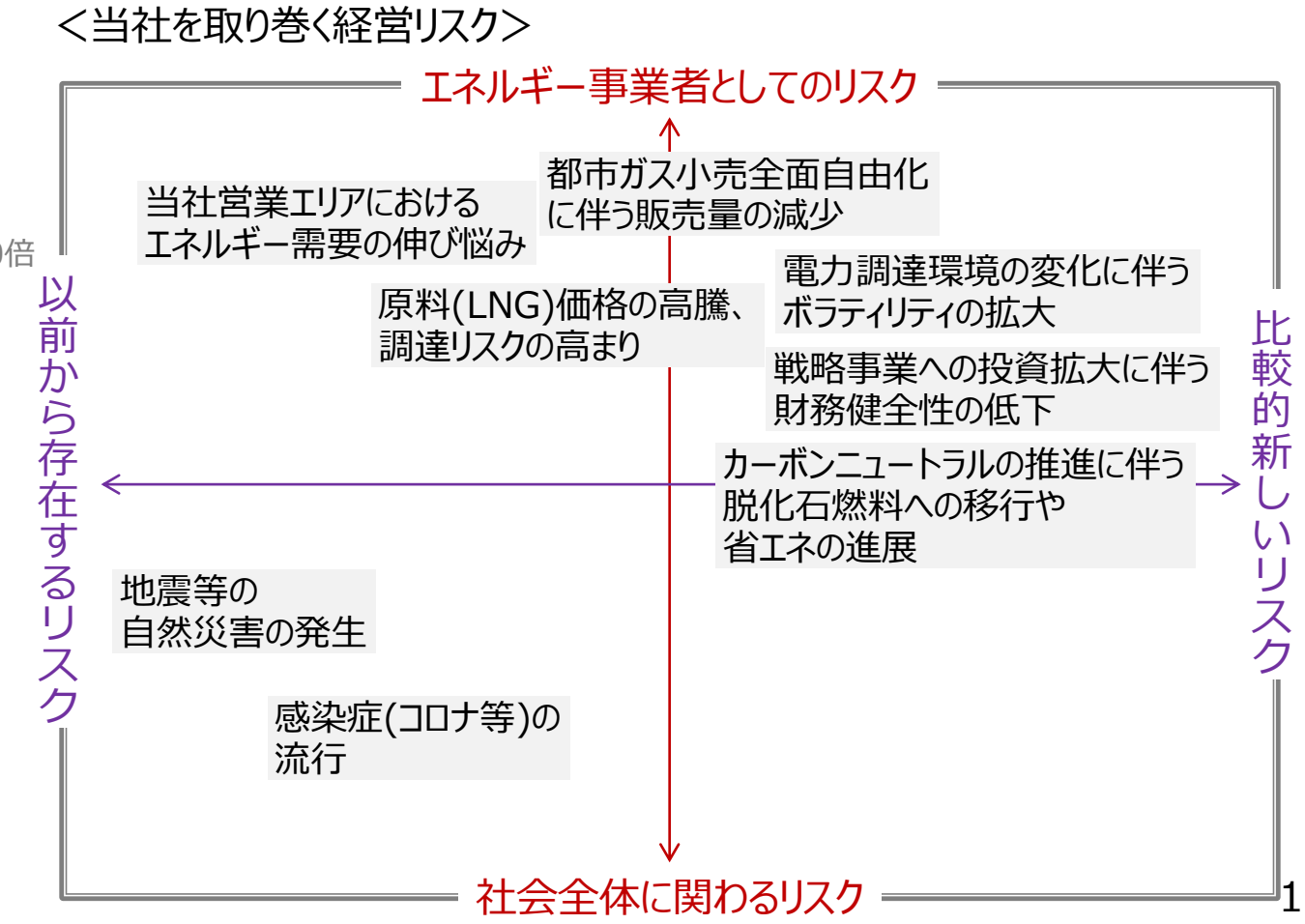
＜直近10か年のキャッシュフロー配分＞ （億円）

キャッシュイン		キャッシュアウト	
営業ＣＦ	5,666	投資ＣＦ	4,456
		株主還元	710
		負債等	499

3．PBRの向上に向けた検討について
（3）PERの分析

- 当社のPER（株価収益率）は、以前は20倍程度で推移していたが、2020年度から2022年度にかけて大きく低下。
- 当社を取り巻く経営リスクに対し、投資家の皆さまの不安を払拭する説明を十分にできていないことで、株価の振れ幅を大きくさせている可能性がある。





3．PBRの向上に向けた検討について
（4）今後の検討の方向性

PBR	ROE × PER	**資産効率の向上**	✓ 都市ガス事業の収益維持、LPG事業の安定成長 ✓ 戦略事業への資源シフトと収益化 ✓ 事業別の資本収益性の管理（ROICの導入等） ✓ 資産の圧縮（保有株式の縮減、事業用資産の活用・売却など）
		適切な資本構成	✓ 自己資本の水準の検討 ✓ 株主還元方針に沿った適切な対応
		PERの向上 **（株主資本コストの低減）**	✓ 株価の安定や当社を取り巻く経営リスクの不安払拭に向けたIR活動の強化、資本市場との対話の推進

＜参考1＞中期経営計画2022-2025の概要
①中期経営計画の位置づけ

中期経営計画は、グループビジョンで掲げた2030年代半ばに目指す姿の実現に向けた第一ステップと位置づけ、４つのテーマへの取組みにより、新たな成長に向けた道筋を確かなものにします。

2022年 — 2025年 — 2030年 — 2030年代半ば

第一ステップ
コア事業※1から戦略事業※2へ経営資源をシフトし、新たな成長に向けた道筋を確立

第二ステップ
経営資源配分の見直しを加速し、事業構造の変革を推進

第三ステップ
戦略事業をコア事業に並ぶ規模に成長させ、目指す姿に到達

中計期間（2022年度～2025年度）に取り組む４つのテーマ

- 01 カーボンニュートラルの推進
- 02 エネルギー事業者としての進化
- 03 多様な価値の創造
- 04 SDGs達成への貢献

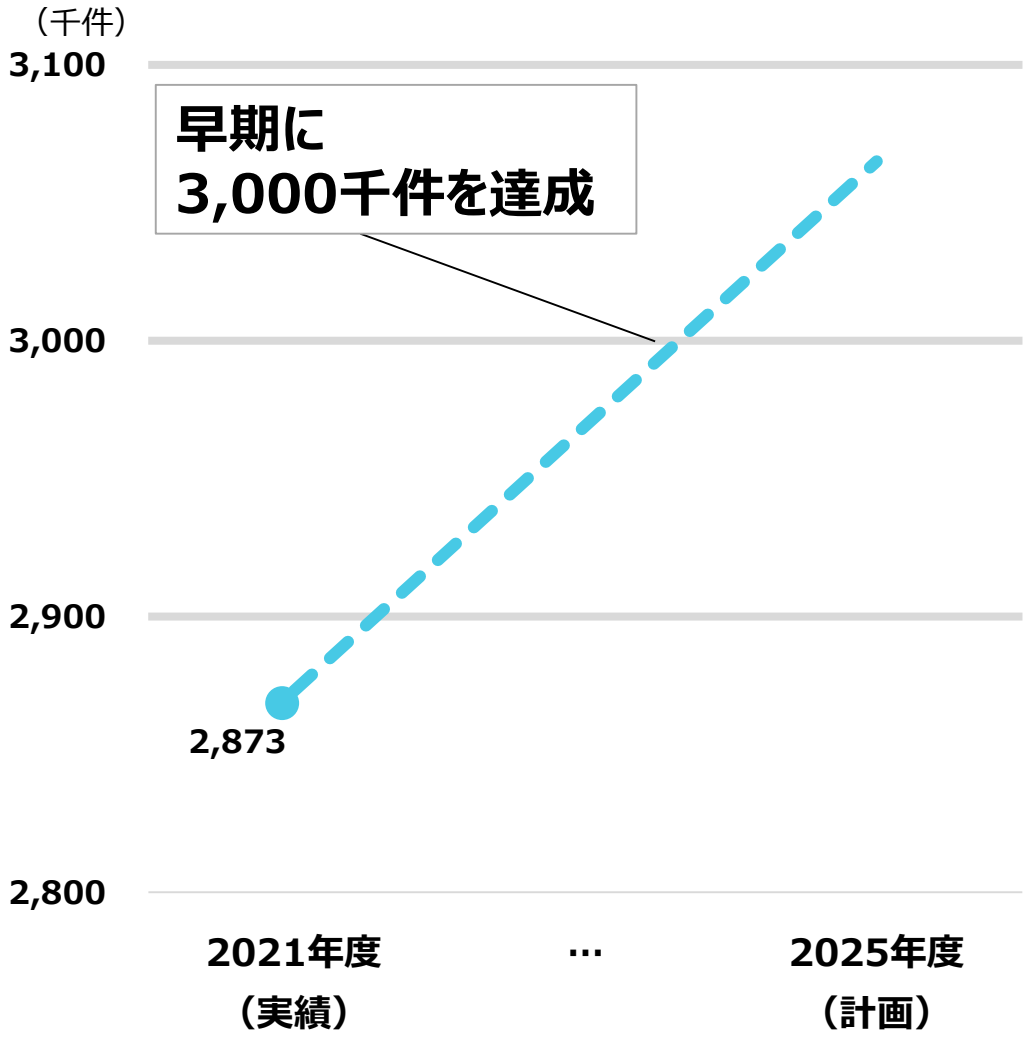
2030年代半ばに目指す姿

- 地域におけるゆるぎないエネルギー事業者
- エネルギーの枠を超えたくらし・ビジネスのパートナー
- 持続可能な社会の実現をリードする企業グループ

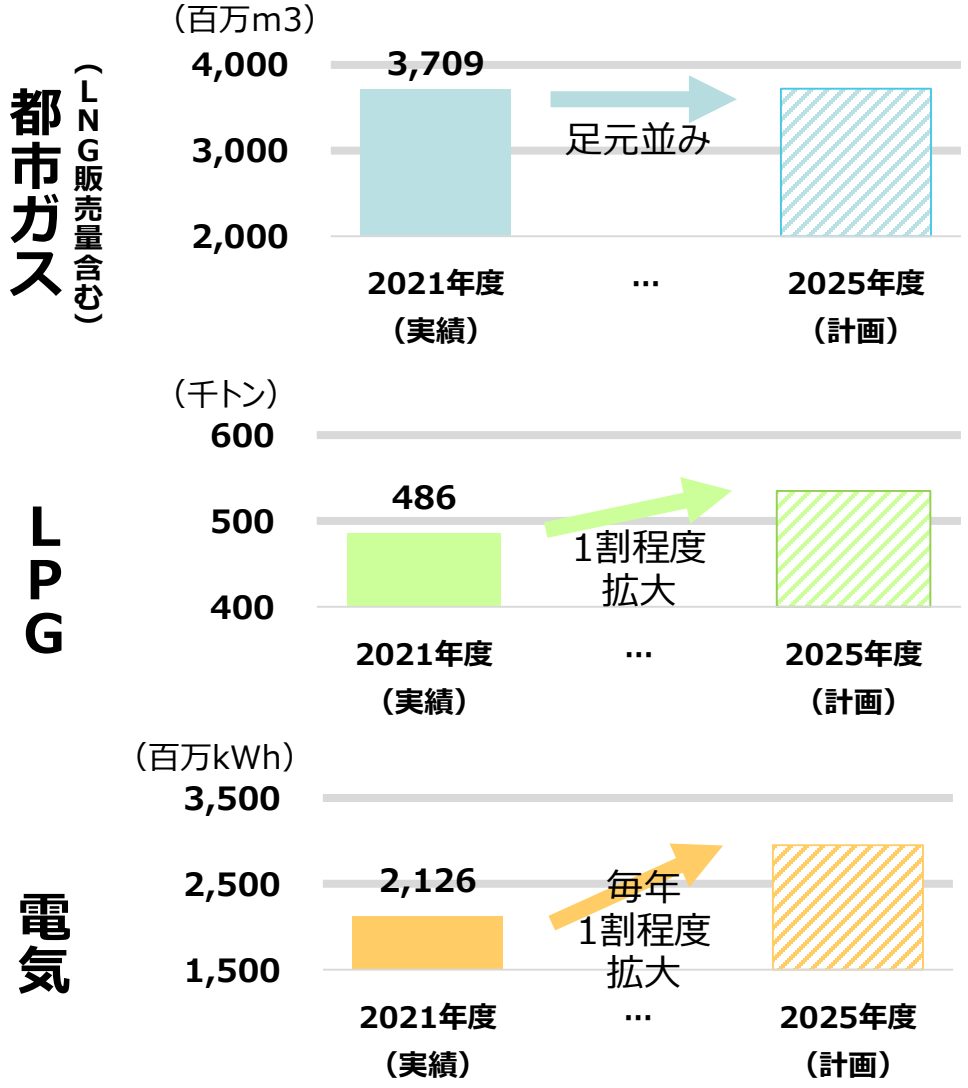
※1 都市ガス・LPGなど、長期安定的な収益基盤としてキャッシュフローを創出する事業
※2 電気・エネルギーサービス・くらし/ビジネスサポートなど、中長期的な成長を牽引する事業

＜参考1＞中期経営計画2022-2025の概要
②数値目標

エネルギーお客さま数



エネルギー販売量



＜参考1＞中期経営計画2022-2025の概要
③経営指標

方針

- 営業キャッシュフローの創出力を維持しつつ、持続的な成長に向けた投資を加速
- 投資拡大局面においても効率性や健全性のバランスをとって全体を管理

	経営指標	経営目標
収益性	営業キャッシュフロー	**2,100億円**以上 （2022~2025年度累計）
効率性	ＲＯＡ	**3%程度**※1 ＞ WACC※2 （2025年度）
健全性	Ｄ／Ｅレシオ	**0.6程度** （2025年度）

※1 2025年度の連結経常利益250億円程度　※2 WACC＝資本コスト: 2%台半ば

株主還元方針	安定配当を基本とし、機動的な自己株取得・消却を合わせ、中長期的に連結当期純利益の４～５割を目安として株主還元を実施

中期経営計画におけるキャッシュフロー

＜キャッシュイン＞

営業ＣＦ
2,100億円

借入等
460億円

＜キャッシュアウト＞

株主還元
260億円＋α

投融資
2,300億円

コア事業：戦略事業
＝１：１

＜参考2＞株主還元の実施状況

■ 株主還元方針

安定配当を基本とし、機動的な自己株取得・消却を合わせ、
中長期的に連結当期純利益の4～5割を目安として株主還元を実施。

■ 2023年度の配当金

通期で1株あたり60円を予定（1株あたり30円の中間配当を実施）。

単位：億円

年度	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023 (計画)※
連結当期純利益	190	430	177	180	148	162	85	154	337	220
年間配当額	51	54	53	55	58	58	58	60	63	63
[1株あたり配当金]	[47.5円]	[50円]	[50円]	[52.5円]	[55円]	[55円]	[55円]	[57.5円]	[60円]	[60円]
自己株取得	29	45	29	-	29	-	-	15	-	-
株主還元　計	80	99	82	55	87	58	58	76	63	63

※2023年10月31日公表時点

TOHO GAS